国立民族学博物館の研究

【機関研究】

機関研究は、国際性と機関間連携を重視した館全体が取り組む重点型の共同研究です。錯綜する現代的課題をターゲットにした新たな人文･社会科学を展開していくために、2つの領域を設定し、関連諸分野と協力しながら創成的な研究を行います。

【共同研究】

特定のテーマについて、公募も含めて館内外の専門家を数人から20人程度集めて研究会をひらき、2～3年という比較的短い期間で成果をあげる活動です。2012年度には42件の共同研究プロジェクトが組織されています。

【機関研究】

研究課題	研究代表者	研究期間（年度）
「包摂と自律の人間学」領域　代表：岸上伸啓		
中国における家族・民族・国家のディスコース	韓 敏	2012-2014
近代ヒスパニック世界における国家・共同体・アイデンティティ ──スペイン領アメリカの集住政策の研究	齋藤 晃	2011-2013
ケアと育みの人類学	鈴木七美	2011-2013
支援の人類学：グローバルな互恵性の構築に向けて	鈴木 紀	2009-2012
「マテリアリティの人間学」領域　代表：寺田吉孝		
民族学資料の収集・保存・情報化に関する実践的研究 ：ロシア民族学博物館との国際共同研究	佐々木史郎	2012-2014
布と人間の人類学的研究	関本照夫	2010-2012
モノの崇拝：所有・収集・表象研究の新展開	竹沢尚一郎	2009-2012

【共同研究】

●は公募による実施課題、◆は特別客員教員（申請時）による実施課題

◎一般

研究課題	研究代表者	研究期間（年度）	
課題１：文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究			
アジア・オセアニアにおける海域ネットワーク社会の人類史的研究 ──資源利用と物質文化の時空間比較	小野林太郎	2012-2015	●
「統制」と公共性の人類学的研究──ミャンマーにおけるモノ・情報・コミュニティ	土佐桂子	2012-2015	●
熱帯の「狩猟採集民」に関する環境史的研究──アジア・アフリカ・南アメリカの比較から	池谷和信	2012-2014	
贈与論再考 ──「贈与」･「交換」･「分配」に関する学際的比較研究	岸上伸啓	2012-2014	
肉食行為の研究	野林厚志	2012-2014	
災害復興における在来知──無形文化の再生と記憶の継承	橋本裕之	2012-2014	●
触文化に関する人類学的研究──博物館を活用した“手学問”理論の構築	廣瀬浩二郎	2012-2014	
パレスチナ・ナショナリズムとシオニズムの交差点	菅瀬晶子	2011-2014	
ストリート・ウィズダムとローカリティの創出に関する人類学的研究	関根康正	2011-2014	●
人の移動と身分証明の人類学	陳 天璽	2011-2014	
ネパールにおける「包摂」をめぐる言説と社会動態に関する比較民族誌的研究	名和克郎	2011-2014	●
NGO 活動の現場に関する人類学的研究 ──グローバル支援の時代における新たな関係性への視座	信田敏宏	2011-2014	
物質性の人類学（物性・感覚性・存在論を焦点として）	古谷嘉章	2011-2014	◆
グローバリゼーションの中で変容する南アジア芸能の人類学的研究	松川恭子	2011-2014	●
現代の保健・医療・福祉の現場における「子どものいのち」	道信良子	2011-2014	●
実践と感情──開発人類学の新展開	関根久雄	2011-2013	◆
日本の「近代化」をアジア・アフリカ諸社会との比較で再検討する	川田順造	2010-2013	●
海外における人類学的日本研究の総合的分析	桑山敬己	2010-2013	●
人類学における家族研究の新たなる可能性	小池 誠	2010-2013	◆
日本の移民コミュニティと移民言語	庄司博史	2010-2013	
非境界型世界の研究──中東的な人間関係のしくみ	堀内正樹	2010-2013	●
驚異譚にみる文化交流の諸相──中東・ヨーロッパを中心に──	山中由里子	2010-2013	
手織機と織物の通文化的研究	吉本 忍	2010-2013	
日本におけるネイティブ人類学／民俗学の成立と文化運動：1930 年代から 1960 年代まで	重信幸彦	2010-2012	●
中国における民族文化の資源化とポリティクス ──南部地域を中心とした人類学・歴史学的研究	塚田誠之	2010-2012	
朝鮮半島北部地域の民俗文化に関する基礎的研究	朝倉敏夫	2009-2012	
サファリングとケアの人類学的研究	浮ヶ谷幸代	2009-2012	●
プラント・マテリアルをめぐる価値づけと関係性	落合雪野	2009-2012	●
言語の系統関係を探る──その方法論と歴史学研究における意味──	菊澤律子	2009-2012	
オセアニアにおける独立期以降の〈紛争〉に関する比較民族誌的研究	丹羽典生	2009-2012	
アジア・アフリカ地域社会における〈デモクラシー〉の人類学──参加・運動・ガバナンス	真崎克彦	2009-2012	●
映像の共有人類学──映像をわかちあうための方法と理論──	村尾静二	2009-2012	●
課題２：本館の所蔵する資料に関する研究			
明治から終戦までの北海道・樺太・千島における人類学・民族学研究と収集活動 ──国立民族学博物館所蔵のアイヌ、ウイルタ、ニヴフ資料の再検討	齋藤玲子	2012-2015	
音盤を通してみる声の近代──台湾・上海・日本で発売されたレコードの比較研究を中心に	劉 麟玉	2011-2014	●
梅棹忠夫モンゴル研究資料の学術的利用	小長谷有紀	2011-2013	

◎若手

研究課題	研究代表者	研究期間（年度）
課題１：文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究		
現代消費文化に関する人類学的研究 ──モノの価値の変化にみるグローバル化の多元性に着目して	小川さやか	2012-2014
ランドスケープの人類学的研究──視覚化と身体化の視点から	河合洋尚	2012-2014
「国家英雄」から見るインドネシアの地方と民族の生成と再生	津田浩司	2012-2014 ●
帰還移民の比較民族誌的研究──帰還・故郷をめぐる概念と生活世界	奈倉京子	2011-2013 ●
交錯する態度への民族誌的接近──連辞符人類学の再考、そしてその先へ	岩佐光広	2010-2012 ●
内陸アジアの宗教復興──体制移行と越境を経験した多文化社会における宗教実践の展開	藤本透子	2010-2012
映像資料を活用したイスラームの多様性に関する地域間比較研究	吉本康子	2010-2012 ●